

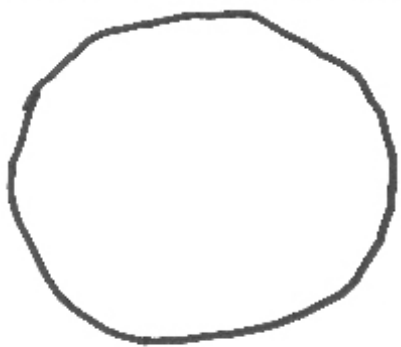
編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)  
 TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com  
 代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部 200円  
 年間購読料：個人会員 2000円 広報会員 (3部) 5000円  
 法人会員 1口 (5部) 10000円 賛助会員 (1部) 10000円  
 振替口座 00940-0-161341  
 「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう しょう しゃこよう かくだい かぶ  
 特集：障がい者雇用の拡大を-株きると- 2  
 リレーエッセイ：弱者切り捨ての天津駅改修-佐野武和- 4  
 なつ せんそう へいわ とくしゅう いしづか なおと  
 夏の「戦争と平和」特集-石塚直人- 5  
 あかしし しさつ だん う い やねや あつこ  
 明石市視察団を受け入れて-家根谷敦子- 7

題字：  
 塩澤 文男  
 (しおざわ・ふみお)



お月見と猫

絵：ゆーくん (奏海の杜)

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

原一男監督の代表作『ゆきゆきて、神軍』は1987年に公開、ベルリン国際映画祭や毎日映画コンクールなど国内外で数多くの受賞歴を誇る。キャッチコピーが「知らぬ存ぜぬは許しませぬ」、英文タイトルはThe Emperor's Naked Army Marches On「天皇の丸腰の軍が行軍する」と、実にユニークだった▲主人公の奥崎謙三(2005年没、享年85)は1969年正月、皇居で昭和天皇に向かつて、15mの至近距離から計4発のパチンコ玉を発射した。この事件以降、正月の一般参賀には防弾硝子が設置されるようになった。72年に出版された『ヤマザキ、天皇を撃て!』は、今や歴史的価値を有する名著だ▲奥崎は、自らを「神軍平等兵」と称した。また「ゆきゆきて」は、芭蕉の句「行き行きて倒れ伏すとも萩の原」に由来する。「ゆきゆきて、神軍」とは「奥崎謙三は、どこまでも行けるところまで行って、たとえ途中で力尽きて行き倒れても、萩の花の美しく咲く野辺ならば本望だ」の意味である▲スクリーンに描かれる奥崎の暴力性には、吐き気を催す。しかし、彼の涙の意味を理解した人間は少ない。奥崎謙三が偏執狂だとすれば、奥崎以外の日本人は全て健忘症だと言いたい。今年、30年ぶりにこの問題作が再上映される。(ハギ)



# しょう しゃ ちゅうしん はたら ば かぶ 障がい者が中心となって働く場 (株)きると

## ち い き 地域とつながり障がい者が 働く場の拡大を！

かぶ (株)きると とりしまりやく 取締役 いるべまさや 入部正也さん

作業風景(きるとHPより)



株式会社きるとは、豊中市・伊丹市共有の「み処理施設「クリーンランド」内の「リサイクルプラザ」において、32名の障がい者社員を雇用し、資源化物手選別業務(資源物系統の「み」の中から手選別で異物を取り除く業務)を行っています。

をサポートする教育事業です。障害者権利条約批准にともない障害者差別解消法が制定され、合理的配慮の提供が義務づけられました。行政との協同も含め、これから障がい者雇用をいかに拡大していくか? (株)きるとの実践から学ぶ点は多いと思います。「きると」の設立準備から関わってきた入部正也さんに話を聞きました。(文責・編集部)

### 一般就労に

#### こだわって

入部正也さんは、知的障がい者雇用の拡大を目的とした政策的な事業体です。豊中市・伊丹市の障がい福祉団体が投資して株式会社きるとを立ち上げ、リサイクルプラザの業務を引き受けまし

た。会社設立から6年を経て、様々な経験を重ねてきました。株式会社化した時の思いは今も変わっていません。

一般就労にこだわったのは、福祉的就労と違い労働基準法が適用されるからです。最低賃金以上の給料が保障され、社会保険・雇用保険や賞与・年次有給休暇もある労働です。それゆえ、作業効率を求められ、しっかりと利益を生み出す働き方をしなければなりません。

リサイクル事業部は、2012年4月より稼働を始め、缶類、ペットボトル、プラスチック製容器包装の3種類の資源化物の手選別を担当しています。1台のベルトコンベアに数人を配置して1班を構成し、

流れてくるゴミから異物を取り除く作業を行っています。異物とは、ビン、歯ブラシ、電化製品、汚れたプラスチック、乾電池など資源化できないもの

### 障がい者が力を つけて戦力となる

Q: きるとの実績・特徴とは? 入部正也さんには、3つの特徴があります。

① 地域行政が政策的に支援し誕生した「地域振興企業である」こと。知的障がい者雇用を目的に、行政側の政策として実現したプロジェクトです。リサイクルプラザでの障がい者雇用の実現に向けて様々な行政機関と

を指します。異物の種類が非常に多く、また大量のごみの中から異物を発見しすぐに除去するには、異物を瞬時に見分け取り除くことや、取り除いた異物を種類毎に間違えず分別することなど、相当な集中力や判断力を要求されるため、各職員のスキルアップが常に求められており、どれだけ異物を除去できるかが会社の収益にも影響します。

2016年10月には選別後の資源ごみの異物混入割合を確認する検査(日本容器包装リサイクル協会検査)があり、96%

② 「障がい者を人材として捉えて戦力化する」こと。仕事である以上、社員がよい加減に働くことと手選別の品質が落ち、会社が倒産しうるような損失に繋がることがあります。障がい者が力をつけて戦力となっていく

よう、業務分析や実習・研修等、何度も協議も重ねながら雇用計画を検討していきました。やりがいを持ち働き続けられること、多様な働き方を見つけた

5%の結果を出してA評価を得ることができました。リサイクル事業初年度の2012年から5年連続A評価となりました。社員は、公共交通機関を利用して8時までに出勤。リサイクルプラザの全体朝礼に参加し、着替えた後で、「きると」での朝礼を行います。

作業は、1時間作業をして15分休憩を繰り返して、12時から昼食。15時半に作業終了し、掃除が終わったら班ごとのミーティング。着替えをして、終礼後に帰宅します。

③ 障がい者雇用に伴う助成金の活用。障がい者多数雇用により受けた助成金を次の事業に向けた資金として活用しています。

Q: 課題は? 入部正也さんからは5年が経過し職場定着の課題があります。ストレスや疲労により、作業中に不安定になる社員もいます。ま

# 見えてきた課題

かだ い  
かぶ だいひょうとりしまりやくなかむらつねたか  
(株)きると 代表取締役 中村 恒孝



私たちは「一般の企業と同じ仕組みの中で、障がい者雇用を実現する」。そのために、豊中市・伊丹市の支援を受け、NPOや社会福祉法人など非営利・営利組織の議論はありましたが、私たちはあえて営利法人の株式会社として設立しました。当初、障がいの程度も重度から軽度、年齢も高校卒業者から50歳代の者まで幅広く採用し、正規社員雇用の取り組みを進めました。つまり、定年まで働ける正規社員雇用とフルタイム雇用を柱としています。また、設立前から、障がい者雇用に向けて、支援人材育成も進めました。

リサイクル事業を開始し、5年目を迎えた昨年からは体力的な問題や障がいに起因する問題が頻発しており、個々人の適性にあった就労の有り方が問われています。

一方、研修や資格取得など職業支援の充実、そして、相談員や顧問医の配置、家庭、支援機関、医療機関との連携強化も進めました。そうした中で、もっと働きやすい就労環境づくりに向け、雇用のあり方を再検討しました。

多様就業型ワークシェアリング制度導入です。多様な働き方を提供することを通して、より多くの皆様に雇用機会を与えることを目的としています。現在働いている人は、フルタイム勤務（長時間労働）一辺倒の働き方ではなく、自らのライフスタイルやライフステージに応じた多様な働き方が実現でき、様々な制約によって就業の継続ができなかった人や就業の機会を得られなかった人たちにとっては、継続して就業することが可能となったり新たに就業の機会が得られたりすることとなります。

私たちは「一人の脱落者も出さない」と役員会で話し合い、4年前には、交通事故にあった社員を就労継続させるために就業規則を改正し、長期に復帰支援しました。どこまで支援できるかと自分自身の力のなさに反省ですが、効率の論理で排除を進めれば、止め処なく排除は広がり、支援することを放棄しても、「きると」という会社としての存在意義は薄れてしまうでしょう。もう一度、「私たちは何のために会社を設立したのか？」起業の原点に私は立ち返りたいと思っています。

た人間関係が深まる中で、社員どうしの金銭の問題や社員同士の人間関係がこじれてしまうこともあるので、そうしたプライベートなことも含めてどこまで関わればいいのか、難しいところだと感じています。

社会性は、こうした経験のなかでも作られていくので、作業精度を向上する能力開発だけでなく生活上のトラブルもサポートできる社内体制や外部とのネットワークが必要だと考えられます。きるとでは、こうした境界的な課題に係るサポートも行っているという現状があります。

## 自立に向けた支援 スクールきると

リサイクル事業部での障がい者雇用のノウハウを活かし、障がい者の就労をサポートしたいと考え、2014年4月にスクール事業部を新設しました。支援学校卒業生や一旦就労しても継続できなかった方、家庭で過ごしておられる方などを対象に、「自立」に向けた「学習」「学びの場」で、伊丹（兵庫県伊丹市）と梅田（大阪府北区）に開校しました。

Q・・・スクール事業部開設の目的は？

入部・・・18歳で高校を卒業しますが、一般的には、社会へ出る前に大学や専門学校という進路があります。18才から22才は、子どもから大人になる「移行期」といえます。

これは、障がい者でも同じです。社会へ出る（一般就労をするか、福祉事業所に通う）前に、自分のペースで、①自己を発見し、自立していくための様々な経験ができる、②社会に適応し、就労に向かうための訓練を受けられる、そんな「学びの場」があってもよいのではないかと考

## 6年を振り返る入部さん



しても定着できず福祉事業所に通ったり家にひきこもってしまいう人が少なくありません。

このような状況から、進路を支援学校高等部卒業までに決めるのではなく、ある程度の時間をかけて考えていきたいというご本人の声、考えさせてあげたいと望むご家族・関係者からのニーズがあります。

## 他地域でも「きると」を越える雇用実践を

Q・・・社会の変化のなかで、「きると」は、障害者総合支援法などを活用しながら、どういった

展望をもっていますか？

入部・・・6年間の経験の蓄積はありますし、障害者雇用促進法が改正され、当時と違って、雇用率の改定、合理的配慮の義務化に加えて、来年度には、精神障がい者も雇用率算定の対象に入ります。しかし、実際の障がい者雇用は進んでいない感じがしません。

(株)きるとは、リサイクルプラザ32人雇用の政策的な取り組みを実現させるため、民間地域で組織を作り、政策的に支援した事例です。他地域でも「きると」の実践を越える取り組みに期待しています。